

- 2016年・記録会は4月17日(日)HLGとPLGとも吉見公園の予定です。
- 2016年・記録会は5月15日(日)HLGとPLGとも吉見公園の予定です。

寒かった冬も終わって、次第に暖かくなりヒコーキが飛ばしやすい春になりました。しかし、間もなく田植えが始まるので、秋まで田んぼとはお別れです。ヒコーキ環境の変化によりヒコーキ屋さん最近では様々に転身を図って、室内機や弓道を始める人もいます。いずれも「飛ぶ」と言う点が興味をつなぎ止めるのでしょうか。私は近所の公園でスケール機を始めて既に10年以上が経ちましたが、普及が進まず苦戦しています。スケール機は飛行機の形や飛行姿勢を楽しめる点が素晴らしいのですが、その分飛ばしにくい。しかしこれが醍醐味なのですが、その面白みを解ってくれる人は少ないのですね。本当のヒコーキ好きは飛ばすばかりではなく、飛行機の形を見ているだけで楽しめるのですから、当然ながらスケール機は飛ぶ姿形も含めて、形そのものを鑑賞する楽しみは大きいと思うのですが……。身体が動かなくなれば、更に飛行機を見るだけの楽しみも方法もあってイイと思いますが、如何ですか。

- | | |
|--|---|
| <p>記録会報告</p> <p>お知らせ</p> <p>FFサロン</p> <p>雑談天国</p> <p>ざっがき</p> | <p>①②③④2016年2月、3月HLG/PLG記録会報告、</p> <p>⑤国際級大中大会報告・高田 ⑥FF春の小型機旭大会報告</p> <p>⑦FF国際級旭大会報告</p> <p>⑧28年平城京大会案内</p> <p>⑨HLG回収用発音器・森口他</p> <p>⑩東日本大災害から5年・平尾</p> <p>⑪パンの話</p> |
|--|---|

◆2016年2月記録会報告(HLG/PLG)

2月HLG記録会報告

①……平尾

今回の記録会には久保、赤星の両選手が欠席で、期待していたレポートがありません。さらに悪い事には出席していた石井満選手のブログも何も書いてくれてません。あーあ、と言う事でやむなくレポート書きです。この日は春にしては素晴らしいヒコーキ日和で、フライオフ10名を予想していました。

少しずつ暖かくなってきたので、現地到着の8時頃には各選手共、練習に励んでいました。このところ体力の衰えを感じる事が度々ありHLGを投げる毎にヨロヨロする始末で、他人のヒコーキなど見ている余裕がありません。更に、最近のHLGは40mも上がる高高度飛行が流行っていて、60秒マックスがいとも簡単に出来ます。更に困った事には老齡？の齊藤パパまでがヨロヨロ飛ぶやたらと浮きのイイヒコーキでフライオフに残るのですから、やっつけられませんね。他方、野中選手は最近心を入れ替えてらしく小型の新作を持ってきて、実に調子が良い。吉岡潤選手も高度は今一ながら、走り回ってフライオフに残る確率が高いのですから、年齢は関係ないのでしょうか。で今年は間違いなく乱戦模様です。

競技が始まってみると早朝からちょこまかしたサーマル、デサーマルが悪さをしているようで、全選手苦戦している模様。こりゃ、フライオフは少ないかなと思っていたのですが、最終的には7人と半分以上がフライオフに残って2回戦迄行きました。280秒以上の選手が11人/13人ですから、大雑把に見れば、そろそろ全員がフライオフに残る日が近いのではないのでしょうか。

さて、フライオフ1回目では決着が付かず180秒マックスを4選手が通過、FO2回目はデサーマル読みの名人が発航の号令をかけて、ようやくケリが付きまして。最近ではこんな状況は日常茶飯事なので

すから、困った物です。平尾が246秒出したのにビリですからね、何とかしてよ。

2月HLG記録 2月28日 吉見公園、晴、2～12度、東風1～3m、60秒マックス5/10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	FO		総計
1	斉藤 浩	60	55	60	56	53	60	60	29	60		300	180	81	561
2	野中正治	41	37	60	60	60	40	60	60			300	180	58	538
3	稲葉 元	60	60	60	60	60						300	180	23	503
4	吉岡潤一郎	60	60	60	28	33	60	60				300	180	20	500
5	吉岡哲也	53	60	60	44	60	60	60				300	81		381
6	石井 満	07	60	60	58	60	60	43	60			300	68		368
7	斉藤勝夫	60	60	32	60	60	60					300	63		363
8	阿部雅幸	49	60	54	35	44	60	43	60	58	60	298			298
9	森口健太郎	49	60	60	40	56	57	42	60	60	40	293			293
10	相沢泰男	20	44	23	60	60	60	48	60	43	37	288			288
11	下田多門	44	42	60	60	46	39	60	44	60	30	286			286
12	原 一博	19	47	54	32	46	58	30	55	42	41	260			260
13	平尾寿康	60	17	60	44	42	26	40	21	18		246			246

2月PLG記録会報告

②……工藤

ランチャーズ2月記録会は、1週延期して吉見公園で行いました。今回は、松伏・瀬谷・八王子から多くの参加者があり、初出場は3人で久しぶりに12名という大人数で行いました。記録会開始前は微風と絶好の条件で、一週延期は大正解です。記録会前半は好条件のためMAXが連発し、5投目までのMAX数は20個で、各選手とも2～3のMAXを記録し、多くの選手がフライオフに進出するのではないかと思います。しかし、大きなサーマルに入り機体をロストする選手も多く、後半は気流も安定せずサーマルと下降気流が頻発し、気流を読めないパチンコ組には難しい状況で、後半の5投ではMAXが13個とかなり減ってしまいました。記録会は、3MAXが初出場の小林選手、八木(喜)選手の2人、4MAXは尾羽林選手、八木(博)選手、関口選手の3人、フライオフは5MAXの河田選手、工藤の2名でした。フライオフは120秒MAX2投とし、河田選手が77秒で昨年8月以来6か月ぶりの優勝でした。やはり、記録会は大人数が楽しいです。工藤陽久

* 初出場組みが3名とは豪華ですね。新人のみならず何と読むのか解らない変わった名前の選手が増えてましたね。名前はともかく、これからもこの勢いが続いて欲しいものです。結果から見るとフライオフに残った選手が少ないですが、この日はサーマルが小さくてきまぐれで難しかったので、2人も残れば良しとすべきでしょう。(平尾)

2月PLG記録 2月28日吉見公園、晴 風1m～3m 60秒マックス、5/10投

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	河田 健	43	60	60	60	29	39	60	46	38	60	300	77/72		377
2	工藤 陽久	46	60	56	60	60	15	55	60	60	-	300	56/55		356
3	尾羽林邦夫	40	60	43	60	58	50	37	60	25	60	298			298
4	八木 博典	45	60	51	60	60	60	41	7	47	38	291			291
5	八木喜久江	60	41	60	56	53	39	41	60	49	45	289			289
6	関口 正哉	44	19	47	26	41	60	60	41	60	60	287			287
7	小林 永和	60	38	60	42	51	60	36	49	25	22	280			280

8	アントニオ大堰	39	57	5	58	42	51	43	44	60	31	270	270
9	溝井健太郎	60	60	40	47	33	46	37	16	51	37	264	264
10	木下 龍三	38	50	51	60	31	33	54	8	38	10	253	253
11	水車 進	42	36	60	60	9	33	28	18	36	15	234	234
12	寺園 桜華	48	50	27	44	26	18	17	21	12	34	203	203

注:フライオフは1/2投で120秒MAX、

◆2016年3月記録会報告(HLG-B/PLG)

3月HLG記録会の報告

③……赤星、平尾

ここ数年の高高度化が進むに従って、私の投げ方も変化したようです。モサ共にだまされて、これまでより力を入れて振り回しているらしく、胴体と主翼のヒンジ部分がずれて、旋回しなかったりスパイラルに入って落ちるのです。そこでゴウワン連中の飛行機を見ると、ヒンジと胴体部分が全面ガッポリとカバーされていて、ビクともしないように作られています。それを見てしまったので、帰ってから機体のヒンジ部分を全面的に補強しました。しかし、ごまかしの補強ではダメなようで、ドジッタ時に簡単に壊れるのです。そこで更にサイド補強をし直してテスト中です。次回はビリにはならないぞ。(平尾)

* 赤星レポート

今日は 2 ヶ月ぶりにランチャーズ記録会に参加してきました。日の出の10分前に広場に到着。いつものように既にMGさんとOBBやしさんが飛ばしています。

記録会には現エース機の990機で挑みます。お日様がほとんど顔を出さないヒエヒエの空気の中、記録会スタート。道の北側は先日の雨でぬかるみ、助走が満足にとれません。先日から助走の練習していたのに、、、。そんな中、MGさんが絶好調で 5 連続MAXで一抜け。スバラシイ。私も負けずに第 1 投。満足な高さが出ますが、グイグイと高度を落とします。ギリギリのところではどうにかMAX。2 投目は似たようなパターンですが粘り切れず 55 秒。今日はこんな調子でスッポ抜けあり、引っ掛けありで、3 つも落としてしまいました。それでもどうにか 8 投 5MAXでフライオフ進出。フライオフは 10 分間、3 分MAX 2-1。開始直後から風がピタリと止んでしまい、みなさん様子見が続きます。ジリジリとした時間が 5 分ほど過ぎたころ、ようやく弱い吹き込みが。みなさん、一斉に発射。私はほんの少し待って遅れ気味に発航。まずまずの高さが出ますが、みなさんのサーマルに微妙に乗り切れていない様子。端っこに引っかかっているようで、浮いたり下がったりを繰り返します。最後、葦藪の手前でサーマルから完全に抜けてしまい、結果 2 分 50 秒とMAXに 10 秒足らず。

きっちりサーマルを捉えたやまめさん、まーべさん、ONYACANさんが 2 回目進出です。フライオフ 2 回目は 3 分MAX同時発航です。合図をするのはそう、あの人。安心と実績の“で”サーマル・センサーこと、HARAさんです。HARAさんの合図で 3 人一斉に発航しますが、、、。今回も期待に違わず、58 秒・39 秒・37 秒と低調な結果に。直前に 3 分飛ばしていたお三方がいずれも 1 分に届かず。

恐るべし、“で”サーマル・センサー。そんなこんなで、ONYACANさんが 2 連覇です。オメデトウございます！！ 記録会后、練習で飛ばしていたまーべさんの機体、デサが開かずゆっくりと遥か彼方へ。最後は遥か上空で点になって消えてしまいました。これが最後の雄姿！！ 私もしばらく練習していましたが、全く納得のいく投げができず。なんとも低調な 1 日でしたね。最後までモヤモヤした気持ちで帰路につきました。このところ、工作がいっこうに進みません。カテ4も作りたいし、HLG-AもBも作りたい。でも、バルサもカーボンパイプも足りないんですよ。スタイロの熱線カットの練習も続けているのですが、なかなか満足のいくカットができず、ゴミばかりが増えていきます。工作も、投げも、サーマル読みも、もっと上手になりたい！！

3月HLG記録 3月13日吉見公園、晴、8～10度、風1～3m、60秒マックス5／10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	斉藤 浩	57	60	60	60	60	60					300	180/58		538
2	石井 満	60	60	45	60	58	60	60				300	180/39		519
3	安部雅幸	60	58	57	60	60	60	53	60			300	180/37		517
4	赤星和芳	60	55	60	60	56	60	52	60			300	170		470
5	稲葉 元	40	28	48	60	60	60	60	43	60		300	115		415
6	吉岡潤一郎	60	60	60	48	59	60	47	36	60		300	112		412
7	森口健太郎	60	60	60	60	60						300	82		382
8	中禮一彦	60	60	57	31	60	39	60	49	47	17	297			297
9	吉岡哲也	32	60	30	31	60	60	44	57	60	39	279			279
9	原 一博	42	42	46	60	22	41	48	60	48	58	274			274
11	相沢泰男	27	60	40	42	43	25	50	60	34	49	262			262
12	平尾寿康	42	33	37	40	60	34	42	37	39	34	223			223

3月PLG記録会の報告

④.....河田

フライオフに残った大堰(おおずち)さんと尾羽林さんが、小型機を高高度に打ち上げるPLGの基本を見せてくれました。風速、会場の広さ、可視条件に応じて機体を選択して記録会に臨む選手が現れるでしょう。(河田)

と大変短いレポートです。この日飛行機日和でしたが、結構難しいサーマルで苦戦された模様です。で、河田さんはふてくされての短いレポートに.....ではないでしょうね。バチンコは参加人数は少ないながら、穏やかに和気藹々と飛ばしてました。但し、遠くに飛ぶと足場が悪いの難儀されていたようです。しかし、良く飛ぶ日のフリーフライト競技は、回収も含むので体力が要る所が老人には辛いものの、身体にイ訳で(イ訳ないかな)、帰ってからのお酒が美味いはずですが。

3月PLG記録 3月13日吉見公園、晴／曇り、8度、風1～4m、60秒マックス5／10投

NO	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F 1	F 2	総計
1	アントニオ大堰	60	36	44	60	45	60	60	60			300	120		420
2	尾羽林邦夫	50	45	55	60	60	60	60	49	60		300	66		366
3	河田 健	52	60	60	60	52	47	60	48	42	45	292			292
4	木下 龍三	50	48	60	41	60	34	03	40	49	32	267			267

◆ 2016年FF模型国際級大中大会報告

⑤.....高田富造

3月13日、関西フリーフライト国際級競技会(二宮賞)が滋賀県東近江市能登川町大中で開催されました。今年も好天に恵まれ、楽しい一日になりました。広島からの初参加者や遠路新潟から、関東からも、新旧の選手が集まり、熱戦を繰り広げました。心配していた役員の態勢もHLGやピーナッツなど他のFF愛好者の応援や1961年のF1A選手権者川阪夫妻などのバックアップでK夫人の指揮のもと、無事に乗り越えました。今回はいつもよりも地元の応援が身に染みる印象でした。回収に向かい畑への立ち入りをお願いしたらキャベツをいただいた人が次々ありました。おなじみの大中カレーも牛飼いのMさんが搬入してくれました。本当にありがたい一日でした。選手の皆様も頑張っていました。成績表は追って発表します。

F1Bの優勝は、地元東近江市の鈴木友信選手でした。緻密な練習の成果です。地元であり大中の

不思議な気流もよく承知している強みはもちろんです、改めて学ぶべき姿勢です。1R、2Rはいつものような大中の朝。魔法瓶のような琵琶湖に引き寄せられる南風。弱くて読みにくい気流、弱くてもしっかり運んでくれる沈みにくい気流。3Rは気流の変わり目。温まり始めた陸地へ風向きが反転する時間帯ですが、そのとき風がさまよいます。これから引っ張り下げる気流も出てくるので難しい対応が必要です。4Rは急に冷え込みサーマルが読み切れないことになりました。ベテランのK博士やN名人もなかなか

2016年度関西FF国際級大会 集計用紙

		天候		晴れ		気温		℃～		℃		風向き	
種目	F1A&C												
氏名	1R	2R	3R	4R	5R	FO1	FO2	合計	順位				
高橋浪男	180	180	240	240	166			1006	1				
増田哲司	180	180	182	240	180			962	2				
生駒大造	90	180	81	240	93			684	3				
種目	F1B												
氏名	1R	2R	3R	4R	5R	FO1	FO2	合計	順位				
鈴木友信	180	180	240	240	180	228		1248	1				
小我野光博	180	180	240	240	180	173		1193	2				
小池 勝	180	180	240	240	180	126		1146	3				
吉田一年	180	180	240	240	180	57		1077	4				
菅原隆郎	180	180	240	240	166			1006	5				
井澤正男	180	143	240	240	180			983	6				
岩田光夫	180	180	240	240	136			976	7				
河合 良	180	180	240	190	180			970	8				
高田富造	180	136	240	215	180			951	9				
西澤 実	180	180	240	159	180			939	10				
工藤 隆	180	180	171	227	180			938	11				
中田光恭	180	180	240	187	149			936	12				
今村利勝	180	180	228	160	180			928	13				
吉田 一	180	172	240	141	180			913	14				
熊井恒雄	180	180	120	240	180			900	15				
佐藤友伯	180	180	240	167	124			891	16				
高山 実	180	180	240	203	0			803	17				
松尾哲郎	180	157	105	125	180			747	18				

か飛ばそうとしません。このあと、4Rと5Rで思いがけない人が落としていました。私個人で言えば、2Rに下降気流でMAXを逃がしましたが、後をしっかりやれば盛り返せたものを4RでDTセットを4分にしないで陥落でした。初参加の広島のYさんは大健闘で拍手でした。

そのほかで印象的だったのは、F1Bの上昇パターンの変化でした。「うわぁ、ずっこける！」と声を上げたくなる棒立ち上昇がそのまますぐにいくのです。えらいことでした。まだまだ進化するのでしょうか。皆様本当にありがとうございました。私たちも次回につなぐ勇気がちょっぴり持てました。

お待たせしました。成績の精査ができましたので発表します。F1Bの優勝はお知らせしたように地元東近江市の鈴木選手。2位は京都市の小我野選手、3位が小池教授。吉田一年選手は惜しくも4位。以

上の方がフライオフを戦いました。松尾さんは前日のものすごいパターンにもかかわらず、やはり「あの一発」が効いたのか乱調でした。記録を見ると、大中の不思議な気流分布に陥れられた方が多かったようです。ベテランでも踏ん切りがつかないささやかな変化で迷われたのかも。

◆ 2016 年FF春の小型機旭大会報告

⑥…………赤星、平尾

昨年に続いて関東でも日本選手権大会以外の競技会が開かれるようになりました。まだ寒さの残る春早々の3月末に干潟で、大型中型国際級+HLG他の競会開催です。ところが私は、参加しようと張り切っていたのに風邪を引いて欠席になり、残念無念。

3月末なので田んぼの様子が気がかりだったが、どうやら無事競技会が成立してようで素晴らしい。

普段は狭い吉見で飛ばしているランチャーズのメンバーも、広大な場所での競技会は良い経験となり、今後に影響が出てくるものと期待しています。但し、参加者がやや少なかったのは残念です。次回からはランチャーズホームページに載せるだけではなく、仲間同士のみならず、各クラブに声かけをする等々更に努力して欲しいと思います。

過去には松野さんの様な競技会の雰囲気づくりをする人がいたのに、最近はいなくなりました。更に高齢化に伴い、若手(70才以下を言う)のお祭り屋が出てきません。FF委員を中心として、自分が競技会を楽しむばかりではなくFF界全員を楽しくさせるよう、FF委員を中心にぜひ頑張ってもらいたい。

今回は国際級ジュニアのF1G、H、SとHLG及びLPの競技会であったが、残念ながら種目単独で成立したのはHLGとモータープレーンのみであった。参加者も関東地区のみで、関西、中部からの参加者がゼロであったのは寂しい。しかもHLG競技の参加者はランチャーズの8名のみと少なく、これではまるでランチャーズがいないと成立しないではないか。もっともっと頑張ってもらいたい。モータープレーンは参加者が5名と言うのは今ひとつの感はありますが、最近の注目はモータープレーン競技でしょう。ヒコーキ屋にはデンキを苦手とする人が多いと思いますが、スイッチオンで簡単に飛ばせるのが取柄です。

資料と材料が手軽に揃って機体作りが楽になるとF1Sの愛好者も増えるのでしょう。(平尾)

1. HLG・赤星レポート

春の旭大会に参加してきました。朝、というより夜中の 3 時過ぎに家を出て、旭田んぼまで 2 時間と少し、日の出の少し前に会場に到着。競技開始までにガッチリ練習をしようと思っておりましたが、田んぼには水が入っている面があり、入っていない面もかなりぬかるんでいます。開始前のテンションガタ落ち。とはいえ練習しないわけにもいきません。

田んぼにデサで降りた機体を回収に行くと、深いところだとくるぶしの上まで泥に埋まります。上手に歩かないと長靴が抜けなくなってしまいます。まーべさん、右手が泥だらけですよ。(田んぼがべちゃべちゃの場合は、杖があると問題なしですよ)。そんなわけで田んぼのコンディションは良くなかったのですが、風は 0 ~ 2 m/sほどで予報に反して絶好のコンディション。

競技は 1R45 分間のラウンド制で、2 投 1 採、60 秒MAXです。競技開始は 8 時。途中あられが降ったり、日が差して上着を脱ぐほど暖かく

なったり、めまぐるしく気象条件が変わる中、やまめさん、まーべさん、ONYACANさんが次々にMAXを重ねます。ラウンドの 1 投目を落とすと、2 投目は落とせないというプレッシャーに襲われますね。私も順調な滑り出しで 4R目までは連続MAX。5R目、気流が良さそうだと思った機体は、及第点の上昇と返り。ですが、ここからが良くなかった。地面に吸い寄せられるようにどんどん降下してしまいます。結果 50 秒。初の 5 連続MAXとはいきませんでした。ほぼ同時に飛ばしていたまーべさんも落としていたので、完全に気流の読み違いでしたね。痺れる緊張感の中、2 投目はキッチリ気流を読んでMAX。フライオフに残ることができました。

フライオフ 1 回目は 15 分間、2 投 1 採、120 秒MAX。開始早々本日一番の分かりやすいサーマル

が来て、私、やまめさん、ONYACANさんがサーマルGetでクリア。まーべさんは写真を撮っていて1歩乗り遅れてMAXならず。しかし、2投目でしっかりサーマルに乗せてクリアです。この1回目でONYACANさんの機体のデサが開かず、遙か彼方へ姿を消してしまいました。

フライオフ2回目はランチャーズでお馴染みになりつつある、同時発航3分MAXです。発行の合図はもちろん、安心と実績の“で”サーマルセンサー、HARAさんです。道路に横1列に並びます。私は一番奥。HARAさんの合図で4人同時に発航。が、ここでまさかのサーマルが。。。3人の機体はどんどん高度を上げていきます。私の発航位置はサーマルの縁だったらしく、高度を上げるには至りません。頑張っただけのもの、163秒で脱落。1人味噌っかすとなってしまいました。ここでやまめさんの機体のデサが効きません。超高高度まで上がった機体は30分以上飛んでいましたが、風が弱い為になかなか離れてはいきません。ですが、最後は上空の点になって消えてしまいました。

フライオフ3回目は再度、同時発航3分MAXです。今度は“で”サーマルセンサーが信頼性を取り戻し、64秒でONYACANさんが優勝です。オメデトウゴザイマス！！

表彰式後、片づけをして機体捜索に出発。一路やまめさんの機体が消えた方向へ向かいます。車を脇道に停めて、さてどこかと探し始めると、近くにONYACANさんの姿が。『あれ、やまめさんの機体じゃない？』と指差す先に、山吹色の主翼と尾翼が見えるではないですか？こんなにあっさり回収できるのは！！やまめさんに機体を引き渡し、今度はONYACANさんの機体を捜索。田んぼのさらに奥へと車が入っていくと、フロントガラスの向こうになにやらオレンジ色が目に入りました。慌てて車をそちらに向けて走らせると、畑の畦道の斜面にありました！！視界没した機体を2機とも、しかもあっさりと発見できるとは。吉見ではこうはいかないだろうなあ。帰宅後、googleマップで調べてみると、発航場所から2機の回収場所が、見事なまでに一直線上にありました。発航場所からやまめさんの機体まで約1.2km、ONYACANさんの機体まで約2.0kmでした。イヤイヤ、凄いフライオフでしたね。最後まで残れず悔しかったですが、それ以上に楽しい競技会となりました。途中あられが降ったりと、概ね寒い1日でしたが、あちこちに春が感じられましたね。

2016年小型機旭大会記録 3月26日旭市万才田んぼ、曇天 風1m~4m

F1G、H、JLPの混合競技 LPは60秒、他は120秒マックス

NO	選手名	種目	1	2	3	4	5	計	F1	F2	合計
1	栗原	LP	60	60	60	60	60	300			300
2	平岩 保	F1H	78	101	120	0	120	419			419
3	大塚	F1G	65	76	73	25	0	239			239

F1S(電動プレーン)競技 120秒マックス

NO	選手名	1	2	3	4	5	計	F1	F2	合計
1	和田	120	120	120	120	180	660			660
2	松岡	120	66	120	120	180	606			606
3	津田	120	120	120	120	103	583			583
4	田久保	120	120	120	95	117	572			572
5	小平	120	120	120	94	104	558			558

HLG-A 60秒マックス、5/10投

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	斉藤 浩		60		60		60		60		60	300	120/180/64		664
2	石井 満		60		60		60		60		60	300	120/180/48		648

3	安部 雅幸	60	60	60	60	60	300	120/180/47	647
4	赤星 和芳	60	60	60	60	60	300	120/163	583
5	吉岡潤一郎	35	51	59	60	60	265		265
6	斉藤 勝夫	60	38	50	45	60	253		253
7	原 一博	41	48	33	60	60	242		242

HLG-B 60秒マックス、5/10投

NO	選手名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	F1	F2	合計
1	安部 雅幸		60		46		58		58		40	262			262
2	中禮 一彦		39		60		60		40		60	259			259
3	赤星 和芳		39		49		49		36		59	232			232
4	石井 満		22		34		38		23		60	177			177

◆ 2016年FF国際級旭大会報告

⑦…………平尾

大変喜ばしいことに選手権以外の競技会が、今年から関東で開催されるようになった。しかもFF国際級競技会である。但し、予告期間が短かったのと、開催時期が大中大会の2週間後だったので、関西や中部からの参加者がなかったが、全種目で競技成立は立派である。天候さえ良ければ来年は、更に多くの参加者になる可能性がある。万才田んぼはもともと水気が多い所なので、この時期田んぼはべちゃべちゃで長靴を取られて回収は難儀したようだ。3月末の開催は時期的には決して良くないが、狭い日本では仕方あるまい。

さて、報告だが、私は参加していないので記録からの感想を述べる。まず、グライダーはだんだんと参加者が減少気味だが、3名集まって競技成立なので合格である。ゴム機は申込み11名と立派なもの、当日欠席が4名でたのは天気予報が悪かったのも仕方あるまい。エンジンも関東のみながら3名揃ったので立派。更に記録の方も三種目ともオールマックスが出ているので、大会としては大成功と言えよう。天候もそこそこ、成績もそこそこで充分競技が楽しめたようで結構でした。

2016年FF国際級旭大会記録 3月27日旭市万才田んぼ、曇天 風1m~4m

F1A

NO	選手名	1	2	3	4	5	計	F1	F2	合計
1	和田光信	180	180	180	180	240	960			960
2	村上善信	63	172	180	136	240	791			791
3	山本 修	137	180	180	180	25	700			700

F1B

NO	選手名	1	2	3	4	5	計	F1	F2	合計
1	松尾哲朗	180	180	180	180	240	960	300	154	1414
2	佐藤友伯	180	180	180	180	240	960	300	91	1351
3	高山 実	180	180	180	180	240	960	157		1117
4	熊井恒雄	153	180	180	180	240	933			933
5	岩田光夫	180	180	180	180	114	834			834
6	大塚恵司	169	180	86	180	0	615			615
7	織間政美	180	0	0	0	0	180			180
8	菅原隆郎									-

9	西沢 実	-
10	中田光恭	-
11	河合 良	-

F1C

NO	選手名	1	2	3	4	5	計	F1	F2	合計
1	江連明夫	180	180	180	180	240	960			960
2	山田昭彦	161	180	180	180	240	941			941
1	関沢一雅	117	180	180	180	240	897			897

お知らせ

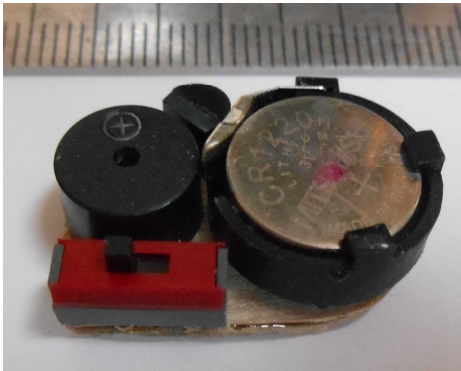
■平成28年平城京大会案内 (参考)

⑨

日 時	2016年6月5日(日)AM8.30受付、8.40開会、9時競技開始、午後1時終了予定。
会 場	史跡「平城宮跡」遺構館駐車場南側の緑地。駐車場トイレ休憩所売店あり。発掘調査の進捗状況及び工事の関係で場所を変更することがあります。
駐 車 場	平城宮跡遺構館駐車場、西院庭園駐車場及び朱雀門駐車場を利用可(AM8.30分開場で無料)。
種 目	①ライトプレーン(JMA規定+本大会の付加条件=下の規定の項) ②ミニクーペ(ゴム重量5g以下、機体重量35g以上、被覆胴)
競 技	③HLG-A、④HLG-B、⑤CLG、⑥ゴム動カスケール(全幅50cm、ゴム5g以下) ①ライトプレーンは9時～11時30分の間に60秒MAXで3回飛行。②HLG、CLGは9時～11時30分の間に60秒MAXで10回飛行、内5回の合計。③ゴムスケールは40秒MAXで3回飛行。④計時は相互計時、集計は各種目の班長がまとめて本部に報告する。⑤競技の方法は、当日の状況によりミーティングで発表します。
決 勝 規 定	状況により当日決定します。 *ライトプレーン・JMA国内級規定に準拠するが本大会独自の特別規定を付加する。 ①機体数は3機まで、個別識別記号を記入。②機体のJMA規定:全長50cmまで(空転シャフトの先端から尾端まで)、ゴム露出。これに付加する本大会の特別規定:ゴム重量3g以下、機体重量は20g以上、③折畳みプロペラ禁止、機械的可変ピッチも不可 *CLG CLGのゴムはFAIラバー1/8を1mまで。棒は15cmまで。 *HLG-A 翼幅360mm以上。(JMA国内級規定変更) *HLG-B 翼幅160mm以上360mm以下。(JMA国内級規定変更)
参 加 費 注 意	参加費500円(少年無料)、参加者、同伴者は運営に協力の事。 ①ゴミは各自で持ち帰り、平城宮跡敷地内全域禁煙、コンロも禁止。 ②発掘現場や施設に落下の場合大会本部に相談する。 ③近鉄線路は踏切り以外横断禁止。その他配置する安全指導員の指示に従う事 ④風向き等で競技の中断を指示されたら直ちに全ての飛行を停止すること。 ⑤埋蔵文化財保護の為パラソル等杭打禁止。 ⑥DTは安全なものを使用。危険と認めたものは使用を禁止します。
大会役員 主 催	競技委員長・高田富造、競技委員・今村利勝、岸田和義、金丸英一、園田宏樹 関西フリーフライトクラブ連合会、主管団体・KFC、事務局・今村利勝

●HLG用探索装置

⑨……平尾



森口製発音器

1. ここ数年ランチャーズは吉見公園で記録会を開催しています。この良い所は1年中使える事ですが、夏になると草が茂って機体探しに難儀しています。そこで森口選手が自作の軽量でパルス音が出る装置を開発してくれたので紹介します。大きさは25mm×17mm×8mm、重さは3.2g、CR1220(3ボルト)のリチウム電池を使用し、スイッチ付きです。電池1ヶで数時間発信音が出ているらしいので、競技会が始まる前に電池を取り替えれば1日中使えるでしょう。この発音器の入手は森口選手に相談してみてください。都合が良ければ短期間で手に入ると思います。価格は1000円以下ですが、趣味の手作りですので大量に頼むのはダメでしょう。

* 次いで使えそうな物を調べてみました。



キーホルダーと検索機

2. 探索用キーホルダーの使用(以下宣伝文句)

ABS 適用距離:約25~30m。小型サイズ、簡単に持ち運びできます。一つの送信機と四つの受信機で、送信機には四つのビッグボタンがある 迅速で簡単になくなった鍵とほかのアイテムを見つける事が出来る。色ボタンを押してから、ビーブ音とフラッシュでアイテムが見つけれれる。2100円。購入はインターネットで出来ます。注:現在久保選手が購入しテストしていますので、効果は彼に聞いて下さい。

3. 音に反応するキーホルダーを使う

[サイズ] 50×26×10mm、重さ11g

[探せる範囲] 一定の音量で口笛を吹く場合で約 2m。鞆や引き出しに入れた場合は数十cm以内が探せる範囲。 [交換電池] LR41 × 3 個

[製造国] 中国、価格3ヶで1280円

以上の品の購入はインターネットで出来ます。

但し、軽量化するには装置を分解して金物、発光装置(LED他)を外し、更に不要部分を糸鋸で切り取ります。そうすれば5gまで軽量化出来ます。口笛等で反応する周波数は限られているらしい。

音に反応するキーホルダー 以上ですが、どのように使うか等々は、自分の機体の大きさに合わせて、又、飛ばす環境に合わせて考えて下さい。



音に反応するキーホルダー

★ 雑談天国

★ 東日本大震災から5年、どんな事があったが

⑩……平尾

1. 前説

東日本大震災から5年がたちましたが、その間どんな事があったのでしょうか。私がまず気になったのは2011年の会報に載せた「昆愛海ちゃん」の事でした。そこで昆愛海ちゃんのその後を調べてみました。すると2、3年後までの記事はありましたが近々の様子は載っていませんでした。やがて3月になるの

で待っていると、5年目の3月11日、読売新聞朝刊に愛海ちゃんの特集が載りました。詠んでみて、これは会報に使えるなと思い大雑把にまとめる事にしました。しかし、愛海ちゃんの記事のみでは面白くなくろうと思い、「東日本大震災」のその他の事も調べてみました。するとこの5年間に様々な方々が同胞の為に立派な行動を起こしていた事が解りました。その中に「これはみんなに知って貰いたい」との思う記事を、私好みに合わせて抜粋、省略してまとめました。

2. 愛海ちゃんの記事はここから始まった。



読売2011年3月31日朝刊より転載

「愛海ちゃんの手紙」

評判になった記事は、この写真から始まりました。東日本大震災からしばらくしての3月31日、読売新聞朝刊に昆愛海(まなみ)ちゃんがお母さん宛に書いた手紙の写真が載っていました。

写真の愛らしさと、記事の切なさのギャップに心打たれ、会報に載せました。この記事は世界に配信されて有名になり、2011年の東京写真記者協会賞を受賞しています。

皇后さまもこの記事をご覧になって「手紙」と題した詩を詠まれています。

「生きてるといいね ママお元気ですか」 文

(ふみ)に項(うな)傾(かぶ)し幼な児眠る」。現皇后は歴史上に残る優れた歌詠みと頌えられているお方なので小細工を一切なさらず、句の後半に古語を使いストレートにまとめている点、皇后の優しさと思い入れを素直に詠われていて素晴らしい詩だと思います。

* 立石紀和カメラマンが撮影して愛海ちゃんを載せた2011年3月31日付読売新聞は、「この災害の眼ね中でもっとも胸迫る詩を書いた4歳の詩人の作品を載せた」と曾野綾子は評している。

* 取材者・立石カメラマンの弁

震災から約1週間後、岩手県宮古市の漁村を訪れた。入り江の小さな港は津波を押し上げ、場所によっては30メートルの高さにまでなったという。そんな場所で私は4歳の昆愛海ちゃんに出会った。震災直後、自宅にいて両親や妹と津波に流されたが、愛海ちゃんだけが偶然にも漁に使う網に引っかかり奇跡的に助かったという。家族が行方不明になっていることをある程度は理解しているようで、表情は固かった。それから時々会いに行った。トランプで遊んだり絵本を読んだり、おやつを食べたり。カメラは構えなかった。ある日いつものように“ババ抜き”をしていると、突然「ママに手紙を書く」と言い出し、お絵かき帳代わりに大学ノートを広げた。私は急いで車に置いてあったカメラを取りに行った。愛海ちゃんは色鉛筆でゆっくりと1文字1文字手紙を書き始めた。「ママへ。いきるといいね おげんきですか」。1時間くらいかけてそこまで書くと、疲れてしまったのか寝入ってしまった。東日本大震災では、親を失った震災孤児が数百人にのぼるとみられる。私たちも長期にわたり震災と向き合うことになる。今後も時々愛海ちゃんとトランプをしに行こうと思っている。

* 13.3.24、読売・立石。愛海ちゃん(6)はこの春1年生になる。震災までは両親、妹、祖母との5人家族だったが今は祖母との2人暮らし、ここ毎日友だちと遊んだり自転車に乗ったりと元気いっぱいだ。

「ランドセルと筆箱はママが好きなピンクだよ」。来月9日の入学式で新しい友達に会うのを楽しみにしている。

3. 5年間の昆愛海ちゃん関連記事

* 東日本大震災の沿岸部は交通の便がいいとは言えない地域が多いのですが、私が訪れた中で、主観的な意味で遠い場所だったのが、本州最東端と言われる重茂半島です。岩手県の宮古市と山田町に属し、単に交通の便が悪だけでなく、道が蛇行していますし、人口も多いとは言えません。そん

な半島の中部あたりに、千鷲地区があります。そこには本州最東端の千鷲小学校(当時)がありました。現在は、重茂小学校と合併したために、閉校になっています。その学校の近くに昆愛海ちゃん(9歳)が住んでいます。私が愛海ちゃんとお会ったのは震災の翌年でした。愛海ちゃんは震災当日、自宅にいました。地震があつて津波警報が鳴っていたとき、漁師だった父親の文昭さん(享年38歳)は津波が来るというので、海岸沿いに見に行つたようです。そのため、津波にのまれてしまいました。また、自宅にいた母親の由香さん(享年32歳)と妹の蒼葉ちゃん(享年2歳)も、愛海ちゃんとともに津波に襲われ、引き潮で海に流されました。愛海ちゃんは漁で使う刺し網にひっかかり、奇跡的に助かり、海岸で発見され



たのです。現在は祖母の幸子さんと住んでいます。当時、幸子さんは内陸部の病院にいたために無事でした。小さな地区で子どもも少なく、しかし両親と妹を失つたということで、取材も多くありました。そのため、最初のころは「写真を撮るとしゃべらないよ」「いっそに遊ぼう」と言つて、よく遊んだものです。そんな遊びの中で愛海ちゃんが、亡くなつた妹蒼葉ちゃんのことを話しました。「蒼ちゃんがね、お風呂に一人で入れるようになったんだよ...」。震災前のいつ頃の話なのかはよくわかりませんでした。妹の思い出をときどき思い出すように話していました。何度か会うたびにいつも「今度はいつくるの?」と愛海ちゃんは甘えるように言います。遊び相手がないためでしょう。2回ほどアポなしで行つたことがあります。いずれも愛海ちゃんはいませんでした。もう

小学生になり、遠くの学校に通つているためです。写真は12年5月20日、初めて愛海ちゃんとお会つた時のもので、閉校となつた千鷲小学校の校庭で遊んでいました。この日「初めて自転車に乗れるようになった」と話していました。愛海ちゃんが小学生になってからまだ会つていませんので、今年こそは会つてみたいと思っています。ちなみに、1896年6月に起きた明治三陸津波の時は幸子さんのおじいさんだけが助かつたといひます。このときは旧暦の端午の節句だったので、家の風習として、この時以来鯉のぼりをあげなくなつたとの事でした。2015. 6. 22フリーライター・渋井哲也

4. ママに会いに来たよ 2016年3月11日読売新聞朝刊・40面

「ママへ、。いきてるといいね おげんきですか」。岩手県宮古市の小学校3年生、昆愛海ちゃん(9)は、4歳の時の東日本大震災で両親と妹を津波に奪われ、帰つてくると信じて19文字の手紙を書いた。あれから5年。母の遺体が見つかった海岸を先月下旬、初めて訪れた。

愛海ちゃんが住むのは宮古市重茂半島の千鷲地区。2011年3月11日、保育園にいた時に地震があり、迎えに来てくれた母由香さん(当時32才)と帰宅した。海を見下ろす高台の家だっただけが、津波は斜面を駆け上がつてきた。漁師の父文昭さん(同39才)と由香さん、妹蒼葉(同2才)の3人は引き潮にさらわれ、愛海ちゃんだけが漁具に引っかかつて助けられた。重茂半島の津波の遡上高は40メートルを超えた事が後で判明した。同地区の親戚宅に避難し、同月22日、どとどしい平仮名でノートに書いたのが、「ママへ」で始まる手紙だった、市内の内陸にある母方の祖父母宅に避難させようとしても「ママを待ってる」と聞かなかつた。電話が来ると信じ、文昭さんの携帯を握りしめていた。

愛海ちゃんは父方の祖母幸子さん(68才)に引き取られ、震災2ヶ月後から重茂児童館に通い始めた。工作、お遊戯、一番早かつた徒競走。笑顔で一杯の日々を過ごした。7月上旬、児童館の短冊に「パパとアオが早く帰ってきますように」と書いた。「周りの会話から、ママはもう帰つてこないと感じたのかも知れない」。母方の粗布の根木清孝さん(66才)は振り返る。13年春に入学した千鷲小学校では友達に恵まれた。2年の時に重茂小学校に統合されたが、気後れせず、立候補して学級委員にもなつた。

授業参観や子供会に「おばあちゃん、来てけろ」とねだった。昨年秋、ヘリコプターの音がするとふいにつぶやいた。「パパとアオを捜しているのかな」。その少し前、清孝さんは、ママはヘリに見つけてもらったのだと教えていた。愛海ちゃんは「その海岸に行ってみたい」。今年2月21日、清孝さんらと訪れた海辺は強い風が吹いていた。「重茂に似ているね」。怖がるふうもなく、すいすいと歩いて、波が寄せる岩場に降りた。あの日とは違って澄んで静かな海。「ママが天国に行けるようお願いしようね」。清孝さんが声をかけると、沖を見つめた。目を閉じて小さな手を合わせた。三つの花束がその手から空に舞った。一つはいつも優しくてたくさんのワカメを取ってくれた文昭さんへ。もう一つは手先が器用で、折り紙やあやとりを教えてくれた由香さんへ。そして蒼葉ちゃんへ。愛海ちゃんは今年のお年玉をもらった時、自分



読売2016年3月11日朝刊より転載

から千円を抜き、蒼葉ちゃんの写真の前に置いた。5年間見つめてきた幸子さんはつくづく思う。「マナは本当に強い子だあ」。「3.11」を前にした10日の夕方、愛海ちゃんは体操着のまま家族のお墓に向かった。たばことお菓子といちごを供えた。11日朝も普通通り登校する。あの日から一緒に過ごした、たくさんの友達がいる学校へ。

* 警察庁によると東日本大震災の死者は、宮城県、岩手県、福島県を中心に合わせて1万5894人に上り、いまだ2561人の行方がかかっていません。死者の9割以上が津波にのみ込まれたことによる溺死でした。また、これまでに行方不明者の捜索に65万人を超える警察官が捜索活動にあたっていて、今後も捜索を続ける方針です。残念ながら、まだ昆愛海ちゃんのお父さんと妹の蒼葉ちゃんは行方不明のままです。

3. 中国の若者が綴る“感知日本”—愛海ちゃんの記事に中国の学生達に感想を募集した中の最優秀作品、人民網日本語版2011年 東北大学日本語系4年・劉倩・私があなたに言いたいこと—

愛海ちゃん、お元気ですか？ あなたは私のことを知らないけれど、私はあなたのことを知っています。「まなみ」と読むんですね。4歳の女の子でしょ。今、親戚の家に住んでいるでしょ。お母さんに「ママへ生きてるといいね お元気ですか」という手紙を書いたでしょ。手紙を書きながら眠ってしまった写真が新聞に印刷されましたね。自分の写真を見ましたか？ とても可愛いですね。その新聞であなたのことを知りました。お父さん、お母さん、2歳の妹さんが津波で亡くなりましたね。何度も読んで、涙が止まりませんでした。「愛海」は美しい名前ですね。海が大好きで、いつもおいしい魚を採ってくれた漁師のお父さんが、そんな美しい名前をつけてくれたのでしょうか。

今、あなたの寝顔の写真を見て、すこし安心です。夢を見ましたか？ 夢でお母さんに会いましたか？ いま、お母さんは童話の天国にいますよ。白雪姫と七人の背が低い人たちと幸せな生活を送っています。雨はお母さんの涙、風はお母さんの息、雷はお母さんのくしゃみ、太陽はお母さんの笑い。愛海ちゃんはお母さんの姿が見えないけれど、お母さんはずっとあなたのそばにいますよ。ずっと愛海ちゃんのことを見守っています。きょう、愛海ちゃんは何を食べたか？ どんな服を着ているか？ 何を勉強するか？ 友達と遊んでいるか？ 身長はどのくらい伸びたか？ 体重はどのくらい重くなったか？ お母さんはすべて知っていますよ。だから、元気で大きくなってください。そうすると、お母さんも喜びます。青空にいつも太陽の笑いが見えますよ。

「生きてるといいね」 たしかにそのとおりです。4歳のあなたが書いた言葉の深い意味に気づき、驚き、感動しました。人間は生きているから、希望が満ちます。生きているから、奇跡が造れます。朝、眠りから醒め、太陽は光輝き、雲は空を漂い、鳥は歌を歌います。とても幸せですね。生きているから、愛海

ちゃんはこれから、長い道を歩くのです。人生は冒険みたいです。不思議な国のアリスのようにいろいろな面白いところに行き、いろいろなやさしい人と出会い、いろいろな不思議なことを経験できます。未知と困難がいっぱいあります。でも、心配しないで。冒険の道程は楽しみも満ちています。そして、冒険の道であなたは一人ではない。みんなはずっとあなたのことを支え、信じています。お母さんも微笑んで、あなたのことを見守って、神様に加護を祈ります。

ここまで読んでくれたら、愛海ちゃんはこの手紙を書いた人はだれだろうと疑問を持つでしょう。私は中国人です。劉倩(りゅうせん)といいます。今、瀋陽市にある東北大学の四年生です。私を劉倩お姉ちゃんと呼んでください。愛海ちゃんのような妹がほしいです。専門は日本語ですから、日本文化、日本人の国民性についての知識を少し身につけました。日本人が好きな言葉に「一生懸命」があるでしょ。勉強や仕事のことで「がんばります」とよく使うでしょ。日本人は自分の仕事にわが身を捨てる精神があります。日本人の勤勉なところ、正確さを追究するところ、団結するところ、律儀なところ、こうした国民性は外国人にとって、勉強すべきところがたくさんあります。日本の大震災は悲しい出来事でした。でも、その災難に立ち向かう日本人の姿は世界の人々に感動を与えました。自然を受け入れる大きな器を持ち、子供でさえ取り乱さない冷静さ、身勝手な行動を慎む心、不安な生活を送りながらも、前に向かって冷静に一步一步進むとする精神を、われわれ中国人も見習わないといけないと思います。4歳の愛海ちゃんに、そういう話はうまく理解できないかもしれませんが、ただ一つだけ理解してほしいです。あなたは日本人ですから、どんな困難でも打ち勝てます。だから、悩まないで、迷わないで、夢に向かって、わくわくする冒険の道を歩いてくださいね。私は、愛海ちゃんのことを大好きです。寝顔を見ただけで、しっかりした女の子であることがちゃんとわかります。今後の道は長いです。私はずっと愛海ちゃんのことを応援します。追記:見事な文章なので大部分はそのまま掲載した。これも素直に心情を吐露していて素晴らしいと思う。

6. みんな知らなかった・1 災害時の航空会社の活躍

逃げ遅れた乗客を「3. 11」直後から輸送し続けたジェイ・エアの物語 トラベルボイス 3月11日【秋本俊二のエアライン・レポート】

東日本を巨大地震が襲った2011年3月11日は、金曜日だった。ジェイ・エア(JALのエコノミークラス子会社)の社員たちは、3. 11の翌日から臨時便を設定し、2日後には臨時便4本、定期便4本の計8本を伊丹/羽田と山形で運航した。彼らは当時、何を思い、具体的にどう動いたのか――。

* 社長として同社を率いた山村毅氏(現 JAL執行役員)が語る。東北の空港はほぼ機能せず、現場は震災直後は東北のほとんどの空港が機能せず、使えたのは山形だけだった。出張などで東北を訪れていた人たちが「山形まで行けば帰れるかもしれない」と、続々と空港にたどり着く。空港ビルで夜を明かした人も少なくなかった。ジェイ・エアは「料金は後払いでかまいません」と乗客に伝え、翌日も翌々日も伊丹への輸送をつづけた。

* 「現場は“自転車操業”のような状態でした。毎日毎日、1日単位で前日の夕方から臨時便の計画を始めて夜9時ごろにそれを決定します。それから『臨時便を運航します』という広報発表を行い、予約受付を開始すると、10分で全席が埋まってしまいます。東北から関西に帰りたいという人たちの間で『JALが臨時便を飛ばし始めている』という噂が広まっていました。会社の予約センターの電話は一時も鳴り止まなかったのはもちろん、JALのホームページを常にPCに表示させて臨時便の発表を待っていた人も多かったようです。水没した仙台空港には通常、E170 とCRJ200 の 2 機の機材を使って大阪から3往復と札幌から5往復、福岡から2往復を運航している。ジェイ・エアはそれらの機材を中心に、山形への臨時便を増やしていった。しかし機材は確保できても、空港スロットをもらう交渉で難航したり、乗員をうまく割り当てられなければ飛ばすことはできない。「乗員部の社員は調整に苦労したようです。休暇中だった機長や副操縦士の多くが、電話で『休みだけど何かやることがあれば手伝いたい』と申し出てくれました。気持ちは嬉しくても、しかし就業規則上、どうしても休んでいただかないといけない。緊急事態だ

からといって、規則を破って飛んでもらうわけにはいかないのです。『だったら地上業務を手伝いたい』と言ってくれる人も少なくありませんでした。きっと社員全員が同じ気持ちだったと思います。ですが地上は地上で、社員総出で頑張ってくれている。パイロットにはそう伝えました。休暇明けに予想される激務に備えてもらう意味でも、むしろ身体を休めておいてもらうことのほうが大切でしたから」

当時、山形空港には伊丹から毎日3便、羽田から1便のジェイ・エアが飛んでいた。空港スタッフは、その4便に必要な人数がいるだけだ。しかし3.11の翌日は臨時便を含めて5便になり、その後は8便、9便と増えていく。不足した人員を補うべく、大阪から社員を送り、その後はJALの臨時便運航を機に全国の空港スタッフが山形へ応援に駆けつけた。

* スタッフの”心の負担”が限界に ——「それでも飛ばしつづけるしかない」

毎朝カウンターをオープンする時間には、山形から出発しようとする人たちですでに長蛇の列だったといいます。仕事が始まると、空港スタッフたちは夜の8時、9時まで一度もバックオフィスへは戻れない。休み時間なしで案内やチェックイン業務に追われました。食事に行く時間もとれないのを承知で、朝6時にオフィスでおにぎりを食べると、気合いを入れて職場に出ていったと聞きます。空港へはみんなクルマ通勤だったようですが、ガソリンがなくなると補充できず、仕事に行けません。『飛行機を止めるわけにはいかないので優先的にガソリンを売ってほしい』と、スタンドの会社との交渉も自分たちで進めていました。* 臨時便のキャビンを担当する客室乗務員たちには、体力的よりも精神的な負担が積もっていたようだ。最初の1週間は出張先の東北から避難する乗客が多かったが、2週目、3週目になると乗ってくる客層に変化が起こった。「身寄りのない子供が、ランドセル一つで乗ってきたりしました。東北で家族を失い、遠い親戚を頼っての旅だったのでしょう。客室乗務員たちは、そういう乗客をケアしながらのフライトで、心の負担が大きかったと思います。乗務を終えてオフィスに戻り、ワンワン泣いていた若い乗務員もいました」 * 仙台空港に津波が押し寄せたときに、空港スタッフたちが防寒具として着用していた黄色いジャンパーがある。それを、いまでも見ることができないと言っている人も多い。思い出すのが辛い、黄色のジャンパーを見ると胸が苦しくなるというのだ。「それでも、私たちは飛ばしつづけるしかありません。震災から5日後には花巻空港が再開し、山形と花巻に臨時便を集中させました。東京からもJALの臨時便運航が始まり、震災後のJALグループの臨時便は半年間で約3000便に達しました。そのうちの1900便以上が、ジェイ・エアの便でした」

* 「料金後払い」の額は1200万円超、その顛末は——？

前述したように、ジェイ・エアは「緊急事態なので運賃は後払いでかまいません」とアナウンスし、東北への臨時便を飛ばしていた。料金を回収できなければ大赤字になってしまうのを覚悟の上だ。

「責任は私がつから、とにかくチケットをもたない人も乗せて飛ばしてほしい。そう指示したあのときの自分の判断が正しかったのかどうか——いまもわかりません。正規料金でいうと、山形から大阪への運賃は3万円ちょっとで、76人が一人も払ってくれなければ200万円以上の損失になる。それが6便になると、1200万円。ですが、社内で反対の声などはいっさい出なかったですね。むしろ『やりましょう！』と、社員の気持ちは一つになっていたと思います」。山形から伊丹に到着すると、乗客たちは「こちらにお並びください」と空港スタッフやジェイ・エア社員に誘導される。そこで一人ひとりに後払いをお願いするため、連絡先を聞くなどの対応がとられた。では、実際にどれくらいの乗客から後で料金を徴収できたのか？ その質問に、山村氏は当時を思い出しながら目を細めた。

* 「結論から言うと、全員です。お支払いいただけなかったケースは1件もありません。社員たちも、みんな驚いていましたよ。連絡先などは聞いてありましたが、社員が『払ってください』と個別に訪ねたわけでもありません。名前も住所もウソを書かれたら、それで通ってしまう。伊丹で降りた乗客に『こちらで手続きをお願いします』と誘導はしたものの、トイレへ行くと行ってどこかへ消えてしまったら、追いかける術もない。しかし、結果は全員が後できちんと振り込んでくださいました。日本人の素晴らしさだと思いますね」 3.11から5年。ジェイ・エアの社員たちは、今日もそれぞれの現場で自分たちの果たすべき役割

・仕事に取り組んでいる。筆者：秋本俊二 (Shunji Akimoto)

7. みんな知らなかった・2 「福島第2原発を守った英雄達」櫻井よしこ・週刊新潮・日本ルネッサンス

過日、大震災と大津波にも生き残った東京電力福島第二原子力発電所を訪れた。2階には1号機から4号機まで各々110万キロワット、計440万キロワット出力の原発があり、2011年3月11日当日は全てがフル稼働していた。第一原子力発電所(以下1階)では1号機から6号機の内、4～6号機は停止中で、1～3号機の総出力は202・8万キロワットだった。万が一、2階が1階と同じ運命を辿っていたら、被害はもっと深刻だったはずだ。2階を訪ねてみると、改めて沢山の驚きがあった。まず、周知のことではあるが、どの原子炉もマグニチュード9の地震に動じなかったことだ。1階も同様だ。

日本の原発の耐震設計が如何に優れているかを示してくれた事例だが、問題は津波である。緊急時、原発では①止める、②冷やす、③閉じ込めるを実行しなければならない。①は制御棒を挿入し、原子炉を自動停止することだ。激しい揺れが襲った直後に、全原発は正しく止まり、①はクリアした。1階は津波によって電源が喪失し、②が不可能となった。結果、放射能を閉じ込められず、③にも失敗した。

2階では冷却機能を一旦破壊されながらも機能を回復し、②及び③を実行して、冷温停止を達成した。当時の状況を増田尚宏所長が語る。

「いきなり大きな揺れがやってきて、最大の危機だと。腹を括りました」。コントロールセンターにいた所員たちはとっさにパネル台の手摺りにつかまり、辛うじて転倒を防いだ。これは07年の東電柏崎刈羽原子力発電所を襲った地震の教訓だという。全電源が失われ、警報が鳴り響いた。原子炉冷却機能も停止した。一刻も早く電源を回復し原子炉を冷却しなければならない。増田氏は3月11日深夜、所員の安全を確保したうえでウォークダウンを指示した。これは、敷地内を歩いて残された機材や機能はあるのか、一体どれが使えるのか、短時間で効率的に冷却機能を回復するにはどこから復旧作業を始めるのがよいかを人間の目で調べる作業のことだ。

氏が語る。「自分が今解っている事を全員に共有しなければ」という思いで、ホワイトボードに情報を書き出していきました。私が作業員を現場に行かせたのは、地震発生から5～6時間たってからです。

現場か安全かどうか、作業員が現場に行ってくれるかどうか、全く解りませんでしたから、すぐに現場に行けとは言えなかったのです。現場に行ってもらうには、危険が減っている状況を皆に納得して貰う必要があったのです。更に増田所長は、朝と夕方の2回、全作業員が集まるミーティングを開催し、自分が持っている情報、作業員が持っている情報を全て共有する必要があったのです。命令する側とされる側が同じ意識にいることをセンスメーカーと言ひ、これが出来るリーダーは少ないのです。

「外は真っ暗で気温は零下です。津波警報が続いている極めて危険な中で皆、手探りでした。車や建物の残骸が散乱して足の踏み場もない状況下、建屋をまわり、原発を調べるのは本当に勇気のいることでした。皆、必死に調べてくれました」。結果、早急に必要なのは電動機、電力ケーブル、電源車、移動用変圧器などであることが判明した。増田氏は交換用電動機を東芝の三重工場から緊急調達すると決めた。空輸でなければ間に合わない。迷わず自衛隊に依頼する手続きをとった。柏崎刈羽原発にも陸路トラックでの輸送を依頼した。原発を守り、地元と日本を守らなければならないという必死の想いで調達を達成したとき、長い12日が終わっていた。一連の迅速な動きは、皆が一丸となって行った真っ暗闇の中のウォークダウンによる正確な状況把握がもたらした成果だった。

翌13日、破壊された電動機を交換した。高圧電源車も移動用変圧器も配備した。だが、これらの機材と冷却装置をつなぐ肝心のケーブルが全滅していた。新たに敷設するしかない。東電社員は無論のこと、関連企業の社員皆が作業に没頭した。ケーブルの束は両手に余るほど太く、肩に食い込む重さである。「2メートル間隔でケーブルを担ぎました。無事だった廃棄物処理建屋の電源盤から出発し、1号機の原子炉建屋、タービン建屋を回り込んで海側に据えてある1号機から4号機の各々の海水熱交換器の建屋までおよそ9キロメートル分を、ほぼ1日で敷設しました。大の男たちが音を上げそうになるほどの重労働でした。ケーブルを敷設して電源が入り冷却装置が機能し始めると、思わず、皆が拍手しまし

た。原子炉の温度が下がり始め、15日には全ての原子炉で冷温停止が達成されました」

氏は淡々と語る。しかし、間違いなくそれら全ての作業でその瞬間瞬間、現場の人々は皆、使命感に燃えていた。だからひとつの作業が完了し、ひとつの目的が達成される度、歓声と拍手が湧いたのだ。

「津波のひいた後、電源車を運ぶにもショベルカーやトラクターでまず残骸を片付けなければならない。電動機や変圧器をトラックから降ろすにはフォークリフトを操作しなければならない。けれど、東電社員はその種の免許を持っていませんから、動かせなかった。関連企業の社員にもそのような免許を持っている人は中々いない。私は焦りました。その反省に立って皆で猛勉強し、いま、東電社員が全てを動かせるようになりました。いざというとき、どんな役割でも果たせるように、自らを鍛錬し、能力を身につけておかなければならないと実感しています」

米原子力規制委員会、マクファーレン委員長は「非常に困難な状況にある中、知恵を駆使して、自らの命を顧みず安全のため、復旧のために頑張っていたいただいた皆様は真のヒーローだ」と語っている。また、「これほどのシビア・アクシデントの中で何日も寝る間も惜しんで社員を指揮し、関係者全員で冷温停止状態を達成されたことを誇りに思う。良い事例を示して下さったことに心から感謝したい」との言葉は米国最大の電力・原子力事業者、エクセロンのシャカラム上級副社長のものだ。東電社員や関連企業の社員の、命を懸けた献身的な闘いは1階の事故ゆえに無視されがちだ。けれど1階の事例と共に、2階での人々の努力、勇気と理知による成功談も伝えられて然るべきだ。増田氏以下、3・11の日から昼夜を分かたずこの上なく誠実に働いている人々に、私は心からの敬意と感謝を送りたいと思う。

注:勝手に多少文章を付加したり省略しているのはご勘弁を。

8. さいごに

東日本大震災は日本に未曾有の被害をもたらしました。愛海ちゃんの場合は、海面から30メートルも高い所に家があったのにもかかわらず、家族全員津波に流されてしまったのです。この時の津波は40メートルを越えたのですから、もっと高い所に住むべきとなりますが、こんな事が日本各地で起こった事を考えると海岸線に住んではいけない事になります。しかしながら1000年以上前の貞観地震以降、何度も津波に襲われながら海岸線に住む人は後を絶ちません。この様な有様を世界がどのように考えるのか興味のあるところですが、又、日本で起こった事で我々自身が知らない事も沢山あるようですが、大抵は常日頃の共同体意識が良い方に働いて、お互いが助け合う謙虚さや我慢強さに世界中の人々が驚いた様です。日本人は余り自己主張をしません、災害地で、空港で、原発発電所で、又それぞれの場所で、ひとたび事が起こると、いっせいに行動を起こします。

そしてその行動が自己中心ではなく、「恥ずかしくない」「後ろ指を指されない」等々が日本人の行動基準として心の根底にあるのではないのでしょうか。更に沢山の人が被害者に義援金を送ります。但し、未だに放射に関しては不合理な多くの偏見があるのは、不思議な現象です。しかし、遠い親戚の叔父が両親を失った孤児を虐めて、且つ、その義援金を全て使ってしまった逮捕された例もあるので、全てが美談ではないのは当然のように思いますが、それでも、全体としては日本人のモラルの高さを示していて誇りに思います。で、ヒコーキと関係のない記事ですが、災害から5年が経って見ても、ぜひ皆様に知って欲しいとの思いから載せた文章ですから、悪しからず。

★ 雑がき

⑫・・・平尾

1. 昨年来、我が家ではアンデルセン・グループのタカギ・ベーカリーのパンを愛用している。普段はイギリスパン半斤165円を買ってきているが、時々贅沢をしてカンパーニュ(285円)やミニバケット(フランスパン風)を買ってくる。そのいずれも、それぞれ違ったパンの味がして美味しい。しかし、もっと美味しいパンがあれば更に素晴らしいと感じている。最近、近所(と言っても自転車で15分かかかる所もあるが)に立て続けに3軒のパン屋がオープンしたので、そこのパンを買ってみての感想である。その前にまずは

幾つかのパンの説明から始める。

* イギリスパンは基本的には、ややキメが粗くバターや砂糖をあまり加えないで型に入れて焼くあっさりとした味わいのパンである。イギリスでは薄めにカットしカリカリに焼いてバターなどをぬって食べるのがポピュラーなようです。日本ではイギリスと違って、生地が細かくフワフワの柔らかめが良いとされているが、ご飯と一緒に味の方が重要だと思いが・・・。

* カンパーニュはフランスパンの一種で「田舎パン」を意味し、ライ麦粉や精製度の高くない小麦粉で作られ、素朴な味わいが特色である。形は卵型や丸形で、焼きたてより冷めてからのほうが美味しく日持ちがする。要はパンのうま味で勝負するパンで、たまたま食べたくなる事がある。

* クロワッサンはサクサクした食感を出すためには生地を平らに伸ばしバターを均一に挟み何層にも折りたたんで焼き上げて作る。形は小型のひねった三角型をしている。フランスでは朝食時にカフェオレを飲みながらクロワッサンをそれに浸して、ふやかしつつ食べるのが一般的である。間にベーコンやチーズを挟んでも美味しい。パン屋の腕を見るなら、上記のいずれかのパンやフランスパンを買って食べてみれば、その美味さですぐ解る。

1. 海浜幕張にオープンした「メゾン・カイザー」に行ってみた。20席程度のテーブルで食事もあるが、テイクアウトがメインのようだ。食パン、サンドイッチ、菓子パンのいずれも値段はやや高めであるが、ひとまず半斤273円の食パンを買ってみた。素晴らしくきめの細かいフカフカの生地で見目は美味そうだが、食べてみて驚いた。パンの味がほとんどのしないのである。こんなパンは珍しい。これでは山崎パンより高い上に味でも山崎に負ける。日本のパンは全体に甘い、この店の他のパンもいずれも甘い。菓子パンは具で何とでもなるので評価の対象にはならぬが、これではパン屋として失格である。

2. フランスの有名店・レストラン+パン屋の「ブリオッシュ・ドーレ」が検見川浜海浜公園内にオープンした。大手町にも店がある高級パン屋である。100席あるレストランは混んでいて中々入れないので、テイクアウトでクロワッサンとアップルパイ風を買ってみた。結論から言うと美味しい。但し、クロワッサンは美味いがパン生地のインチキなクロワッサンである。しかも小さい上に1個190円するので、一つでは満足出来ず高く付く。本物のクロワッサンはパイ生地で作るので手間がかかるせいでインチキが多いのだが、山崎などの大衆パン屋はクロワッサンを売っていない。他のパン屋でも風と詠っているところが多い。

しかし、ブリオッシュ・ドーレまでパイ生地でないクロワッサンでがっかりした。アップルパイ風の方は甘さもほどほどで合格である。こうなると一流のパン屋でも本物志向がないのだろうかと心配になった。

3. 家のすぐ近くに本物風のパン屋「カフェ、クラフトマン・ベース」がオープンした。夕方行ったのでバケット(フランスパン風)しかなかったが、試しにそれを買った。その隣に真っ黒なカンパーニュ風のパンがあったので、「これ、カンパーニュ」と聞いてみると、「自信作ですので食べてみて下さい」と大きな一切れをサービスしてくれた。食べてみると作りに確かに気合いが入っていて、堅く濃厚な味でしかも酸味が強いし、堅すぎで味もここまで濃いとやり過ぎである。バケットも硬めで味も癖が強い。この店はまだパン釜の調子が良くないのか、いずれも焼けすぎでトーストすると縁が焦げてパラパラと落ちる。確かに山崎と違うのは解るがこれでは一般受けするのは難しい。菓子パンもやっいるのでやっていけるのかな。

* ユーゴーやハンガリーの田舎のパン屋に行ったことがあるが、早朝から開いていて天井まである棚に様々なパンがビッシリと置いてあり、大勢の地元の人々が買いに来ていた。大部分は普通のパンで機目は荒いものの、全て美味しいパンであった。食パンは記憶にないので置いてなかったのかも知れない。

* 3軒のパン屋に行ってみて、山崎パンが如何に上手にパンを作っているかが良く解った。大量に作りながら値段も旨さもほどほどで、さすがに大手である。関東の山崎パンは大して美味しいとは思わないが、四国高松の山崎パンは素晴らしく美味しいのだ。多分、粉と焼き方が違うのだろうが、あの値段である味が出せるのは大した物だと感じ入った。パン屋は難しい。